平成18年度奨励賞

順天堂大学図書館

青木 仕

平成18年度 NPO 法人日本医学図書館協会、協会賞・奨励賞について、その選考過程を記す。本年度も協会賞は、該当者なしであった。奨励賞は、宮下牧子、武山由紀、阿部信一（東京慈恵会医科大学医学情報センター）執筆による論文が推薦され満場一致で決定した。本編は共著論文であるが、論文作成における筆頭著者の重要性を鑑み本論文に決定した。その他2名の3候補論文についても審議されたが、今回は授賞までには至らなかった。協会賞・奨励賞は、過去2年間に公表又は成果のあった業績を対象とする。協会賞は、医学図書館・情報学に関する研究業績で顕著な功績を認められるもの。医学図書館活動・事業に関する業績で顕著な功績を認められるもの。が対象である。奨励賞は、著作物で更なる研鑽により将来性が期待でき、受賞が本人および後続の医学図書館員の奨励・育成に寄与すると認められるもの。と規程で述べられている。

今後も若手の医学図書館員の励みにもなると思われる本賞が継続的にうまれることを願うものである。医学図書館員の皆さんには、機関誌医学図書館への積極的な論文の投稿が望まれる。下記に授賞対象論文とその推薦理由を簡単に記す。

宮下牧子、武山由紀、阿部信一． 雑誌特集記事のエビデンス．医学図書館 2006;53(2):126-32

(推薦理由)

本論文は、一つのテーマに関して論文を集め「特集」として、主に商業誌に掲載されている和雑誌特集記事について調査をしている。特集記事は多忙な医師にとって特定のテーマについてその概要を知るのに役立つ情報源である。このように有用な特集記事であるが、今までそ

の内容についてほとんど調査が行われていなかった。

著者らは、7つの仮説をたて特集記事がどのような参考文献を引用し、どのような執筆者によって記述されているか、書誌事項の記載ミスはないか等について調査している。

調査対象は、月刊誌8誌24特集と週刊誌1誌について6つの項目について調査している。24特集中に597文献が掲載されており、5,884件の参考文献が引用されていた。その調査対象数は十分な数であり、調査範囲も十分に満たしていると考ええる。

その結果、特集記事は1論文当たり10.1件の参考文献を引用し、あまり多い件数ではなく74.8%が洋雑誌であり、2年前の文献が最も多く、最新の情報が多数引用されていることが判明した。論文の研究デザインに着目して、特集記事はEBMの実践資料としては不十分であることを導き出している。引用文献の誤記率は5.5%で先行の誤記率調査に比較して最近では改善されていることが判明した。特集記事の執筆者は、仮説に反して若い研究者も多数占めていることが推測された。次に、週刊誌「医学のあゆみ」掲載の12特集184文献を分析し、月刊誌と週刊誌では内容において大きな違いはなく、発行頻度による参考資料の違いもないことが判明した。

このように、本論文は特集記事について新しい知見を数多く見出している。そして、最後に図書館員は利用者に特集記事の内容を理解し、Clinical Evidence や UpToDate のような EBM 情報源や、エビデンスレベルの高い外国文献などと併用して特集記事を薦めるべきであると提言している。本論文は自然科学論文の執筆要領に準じて構成され、非常に簡潔にそして読みやすくまとめられており、奨励賞に値する論文である。

Manabu AOKI : 〒113-0033 東京都文京区本郷2-2-26.

Tel.03-3813-3111 (内線3244) Fax.03-3814-9300

aokim@med.juntendo.ac.jp

(2007年6月7日 受理)

協会奨励賞受賞報告

東京慈恵会医科大学学術情報センター

宮下 牧子

このたびは、NPO 法人日本医学図書館協会奨励賞をいただき、身に余る光栄と感謝しております。受賞対象の「和雑誌特集記事のエビデンス」は、2005年に開催された第12回医学図書館研究会・継続教育コース（東京）で発表し、そこで寄せられた質問や意見を参考に加筆、訂正したものを医学図書館誌に掲載頂いたものです。私にとっては初めての調査論文であり、論文としての完成度以前に、調査自体を無事に完了することを心配するようなレベルだったため、受賞を聞いたときには本当に驚き、今も夢のように感じています。当時、上司だった共著者のお二人は、初めてのことでばかりで舞い上がっている私のことを、なだめたりすかしたり、叱咤激励したりして、最後まで引っ張ってくださり、また他の先輩方も何かと協力してくださいました。結果、この論文は東京慈恵会医科大学の図書館員全員の力で書き上げられたも

のだと思っています。

調査のきっかけは、図書館カウンターで見かける臨床医の姿でした。多くの臨床医は、和雑誌の特集記事をよく利用していますが、これに着目した論文は、調べてみると意外と少なく、その情報の性質についてもこれまでにほとんど報告されていないことがわかりました。そこで、特集記事はどのような文献を引用しているのか、またどのような著者によって書かれているのかを切り口に調べてみようと考えました。最終的に5,800件を超えた参考文献を対象とした分析は、当初の想像をはるかに超えて時間と精神力を費やすものとなり、3人とも最後のほうは疲労困憊していましたが、そうやって出した調査結果が、自分自身の無知や頭の固さに気づかせてくれ、当初立てた仮説に縛られて見えなくなっていた事実も教えてくれたように思います。

今回の調査のきっかけもそうでしたが、疑問は日常の中に散らばっているのではないのでしょうか。また、皆さんの図書館でも日頃から業務改善やサービス向上を目的に様々な調査が行われていることと思います。そういう一見小さなことをそのままにせず、考察をしてまとめ、文章として発表することにより、日常業務のレベルで出した結果とは違った視点が見つかる可能性があると感じました。私のような若手の図書館員の皆さんも、自分自身の成長のためと、図書館員同士で情報の共有をはかるためにも、積極的に発表されてみてはいかがでしょうか。私自身も、この受賞を励みに、日常的な小さな気づきも、文章にする勇気を持って、業務に取り組んでいきたいと思っています。

総
会
会
場

〇法人日本医学図書館協会

Makiko MIYASHITA : 〒105-8461 東京都港区西新橋3-25-8.

(2007年9月1日 受理)